

2021年2月21日発行

大町山岳博物館友の会 第 186 号

ゆきつばき通信



行事のご案内

令和3年度山博友の会 総会・講演会のお知らせ

講演会

大町市にみる ^{たけ}の^こ ^{やま}岳・野・湖・山

矢野孝雄先生

共催 大町山岳博物館

《期 日》 4月18日(日) 午後1時00分 ~ 3時00分

《場 所》 山岳博物館 講堂

《演 題》 大町市にみる 岳・野・湖・山

《参加費》 無料

《申込み》 要事前申し込み 4月16日(金)まで 定員30人(申込先着順)
参加希望者の氏名・住所・電話番号をFAX(0261-21-2133)または
Eメール(sanpaku@city.omachi.nagano.jp)でご連絡ください。

《内 容》 地域を理解するときに、ゾーニングが役だつことがあります。

大町市の大地のなりたちを理解するために、「岳野湖山(たけのこやま)」というゾーニングはどうだろうか、と思いつきました。といいますのは、このように区分してみると、大町市の魅力がきわだってくるように感じられたからです。申し上げるまでもなく、「岳」は北アルプス、「野」は安曇野、「湖」は仁科三湖、「山」は東山です。

そこで、私の講演では「岳」「野」「湖」「山」の生い立ちについてこれまでにわかっていることながらを紹介し、それぞれの魅力をみなさまと考えてみたいと思い



地形は Google

ます。

※内容については、矢野先生よりいただきました。昨年予定して実施できなかったものです。次の総会とも、体調不良の場合の参加はご遠慮ください。参加に当たっては、手指の消毒、体温チェックを行い万全を期しますが、健康不安のある方も参加は見合わせてください。また、マスク着用でご参加ください。

友の会総会

講演の後、休憩、換気などを行い、令和3年度総会を行います。友の会の活動をより有意義にするために、ぜひ多くの方にご出席いただき、意見を交換いただきたいと思います。

《期 日》 4月18日（日） 午後3時30分 ～ 5時00分

《場 所》 山岳博物館 講堂

《内 容》 令和2年度の事業報告・決算報告 役員改選 令和3年度の事業計画・予算案その他、会員からの提議に関する協議・決議

※zoom等のオンライン参加の設定は準備できません。飲料のサービスは行いませんので、各自でご用意ください。残念ですが、懇親会もありません。

ありがとうプロジェクトに協力します



家庭で不要となった中古品を回収し、海外で再利用してもらったり、販売した収益を、特に発展途上国の教育支援として寄付するものです。受け入れ品目に限定（回収できないものの指定）があります。「ありがとうプロジェクト」で検索いただくか、<http://www.arigatou-prj.org> でアクセスして確認してください。

総会や毎月のボランティア活動日（原則第3日曜）に回収ボックスを用意します。

（担当 川崎祐子）

探鳥会 in 大峰（友の会主催事業 次年度予定事業）

山岳博物館と友の会は古くから鷹狩山をフィールドとして探鳥会（小鳥の声を聞く会）を実施しています。昨年実施できなかった企画ですが、春の観察会として池田町の大峰で探鳥会を行いたいと思います。比較的定点的な（人はあまり動かず、来る鳥を見る）形もとりたいと思います。状況により、花岡山林道などへの移動も考えています。

《期日》 5月9日（日） 午前8時～12時 小雨決行

《場所》 大峰高原白樺の森と周辺（大峰高原小鳥の森）[大カエデの1kmほど北]
（現地集合・解散 駐車場あります）

《対象》 子ども～大人（山道散策もあります）

《募集人員》 20名（定員になり次第、締め切り）

《講師》 栗林勇太学芸員

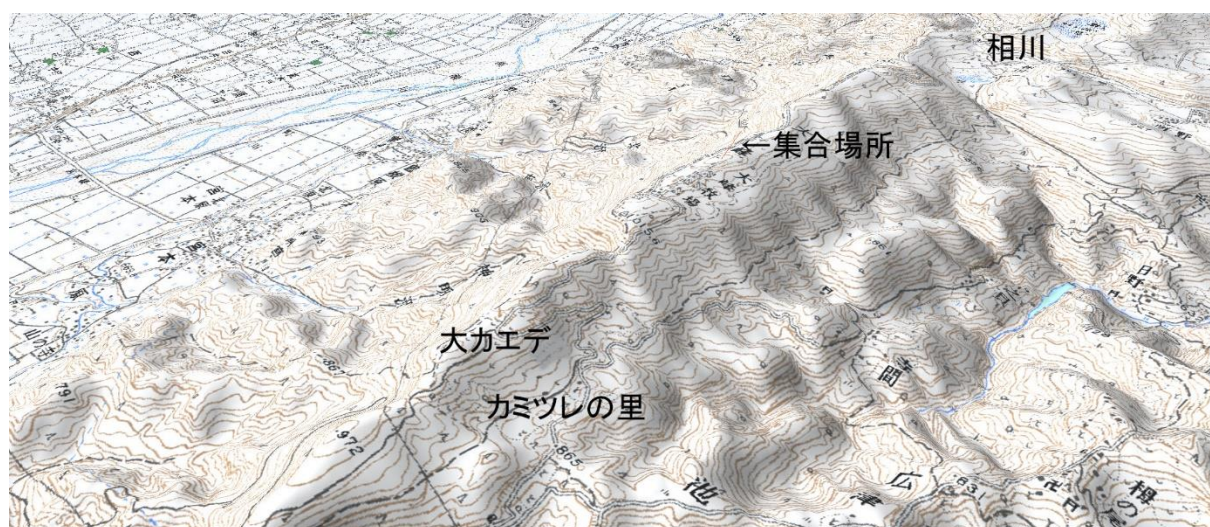
《参加費》 無料（会員のみ 体験入会可、お知り合いをお誘いください）

《持ち物》 筆記用具、雨具、防寒具、日除け（帽子・傘）、観察道具（図鑑、双眼鏡などある方）、飲み物、敷物（ビニールシート、簡易椅子など）

《申し込み》 5月6日（木）まで 電話・FAXまたは直接、友の会事務局へ
（Tel/Fax0261-23-6334）

《当日連絡》 090-1217-9197（丸山卓哉）

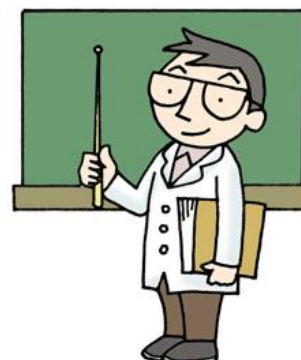
※ マスク着用で参加ください。双眼鏡の家族以外の使いまわしはご遠慮ください。フィールドスコープは、カバーを介して観測していただきます。体調不良の場合の参加はご遠慮ください。健康不安のある方も参加は見合わせてください。友の会名物のトン汁会食も止めにしておきます。



[ご案内] 山岳博物館主催

研究報告&座談会「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2021」

山岳博物館が行っている各分野の調査研究の内容をわかりやすくお伝えするとともに、参加者をまじえて、北アルプスの自然や歴史について自由に情報・意見交換を行います。この催しは前期・後期の2回にわたって2週連続で実施します。どちらかのみでの参加もできますので、お気軽にお申し込みください。



各回の研究報告テーマは下記のとおりです。

■前期：3月7日（日）

- (1) 爺ヶ岳の雪形伝承と山名由来（学芸員 関 悟志）
- (2) 希少動物を守るには？ ～ライチョウ保全の最前線と博物館の役割～
（学芸員 栗林勇太）
- (3) 気候変動はなぜ起こる？（館長 鈴木啓助）

■後期：3月14日（日）

- (1) 花と昆虫、ふしぎな関係にせまる（学芸員 千葉悟志）
- (2) センサーカメラを用いた野生動物の観察 ～大町市内の野生哺乳類のいま～
（学芸員 藤田達也）
- (3) 佐野坂丘陵と青木湖の成立ちをさぐる（専門員 太田勝一）

開催時間：両日とも午後1時30分～4時

場所：市立大町山岳博物館 講堂

募集人員：前期・後期の両日とも各30人（先着） 対象：どなたでも 無料

申し込み：当日までに電話・FAX・Eメールまたは直接、山岳博物館へ

お申し込みの際は、参加希望日（前期か後期、または両日）と、参加希望者の氏名、住所、電話番号をご連絡ください。

電話：0261-22-0211/FAX：0261-21-2133

Eメール：sanpaku@city.omachi.nagano.jp

※定員になり次第締め切ります。当日はマスク着用で来場いただき、受付にて手指消毒と検温にご協力ください。

報 告	[友の会主催事]
-----	----------

ゆ き ん こ 2 南極の秘密

《期 日》 2月13日(土) 午後1時～午後3時30分

《場 所》 山岳博物館講堂

《講 師》 鈴木啓助大町山岳博物館館長

《参加者》 17名

タイトルがちょっと学術的ではない。科学を易しく解説する子供の図鑑のようでもある(別に自然が隠し事をしているわけではない)。

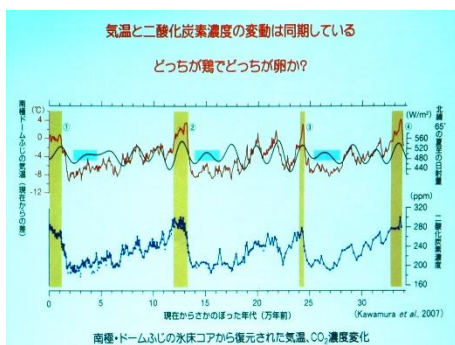
鈴木先生は越冬と、夏の計2回南極に行かれている。そして、高地のドームふじ(南緯77°)に3回行かれた。南極の大陸氷河は内陸高地ではダイヤモンドダストなどから涵養され周囲は流動している。だから、高地で氷床をボーリングすると、縦に堆積した古い氷まで採取される。それは3000mで72万年である。そして氷には当時の空気も閉じ込められている。

酸素の同位体比を調べると、その時の温度が調べられる。また、二酸化炭素の変動も分かる。南極氷床からは30万年の地球の温度と二酸化炭素のデータが得られ、これは相関している。二酸化炭素が増えたから温暖化したか、温暖化したから二酸化炭素が多くなったのか(これをコップの温度とビールの泡で説明される:話は酒浸りである)、鶏と卵の関係という。また、これらはミランコビッチの周期で変動して、地球軌道、自転軸起源という。二酸化炭素の温暖化効果は小さく、南極大陸は温暖化していない。そんな切り口で、地球全体を見たお話であった。

もちろん、昭和基地やドームふじでの生活の様子や観測船や航空機での移動のお話もあった。南極観測にこころ躍らせた世代は、学校の図書館の本でも読んだろう。苦勞や我慢の多い観測生活ならでは、ばかばかしいイベントが行われてきた。氷上流しそうめんは、熱いまま流さないと、末まで届かない。水着の女の子のボードで積雪の変化を経年観測する。お金を使うところがないから、マージャンをやってもお金が動かない。図書館の本にはないいろいろな秘密も織り交ぜられた。

結局昨年に続き雪なしの大町。積雪や降雪の観測はできなかった。今後は、冬の自然観察会を復活して、スノーシューで野山を歩いて、降れば雪の観測もしてみたい。

(記 編集担当)



烏帽子の会

活動報告 《塩尻の里山 なるかみやま 鳴雷山 (1093.5m) 》

《月日》12月26日(土) 《天気》晴れ 《参加者》14名

ほとんど知られていない山だが気になる山名だ。訪れる人もおそらくあまりないように思われる。地元塩尻市宗賀床尾地区、床尾神社の奥宮が頂上にあり、地域では慣れ親しんでいる山のようなのである。毎年8月には伝統行事「鳴雷山の火祭り」が行われ、頂上まで松明を持って登り、雨乞いや豊作を祈願するという。

計画では鳴雷山がメインであるが、少々



鳴雷山山頂と床尾神社

物足りないため、平出地区を象徴する比叡の山で足ならしをした。頂上からは宗賀地区や中央西線、国道19号が真下に見える。移動して床尾神社に車を止めて鳴雷山に登山開始。この夏に登山道が拡幅整備されて、立派な道が続く。背の高いカラマツなどで見通しは全くきかない。さらに北向斜面の冬の低い日差しでは全くの日影だ。立派な霜柱を見て感動したりしていた。上の方になると昨日降った雪が登山道をうっすらと覆う。途中



鳴雷山頂上にて

から昔からの道（整備されていない尾根浴い）に分かれて登った者もいたが、1時間ほどで稜線に出た。ここにある砥石地蔵の祠も新しくなっていた。稜線から西へやや急な笹に覆われた道を5分ほど登ると、床尾神社奥宮のある頂上に出た。頂上の見晴らしは全くない。鳴雷山頂上の立派な看板が立てられていた。

記念撮影を早々済ませ、もう一つの目標である久ノ井山に向かった。鳴雷山から砥石地蔵まで戻り、霧訪山方面へ続く比較的平坦な稜線縦走路を進む。南側斜面は松茸山で有刺鉄線が張られていた。30分余りで無名峰頂上に着き、昼食とする。ここも見晴らしは全くな



無名峰（久ノ井山）頂上にてパチリ
(参加者は14名)

いが、小春日和の日差しは心地良い。

床尾神社まで登った道に戻る。かつては日本三大遺跡といわれた広大な平出遺跡に寄り、中山道の平出一里塚を横目に見て岐路に着いた。 (宮澤洋介)

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ボランティアサークル

1月17日山博でボランティアサークルの交流会を行いました。

まず、有川さんから友の会ボランティアの10年間の活動報告がありました。そのあと、今後、サークルでも取り組みたいSDGsの概要を丸山卓哉さんが話しました(大町市はSDGsの未来都市に指定されている)。

次のフリートークでは、ボランティアや友の会活動を皆さんが普段どう思っているか、これからどうしたらよいかなどの発言をお願いしました。

博物館からはこの10年間のボランティアを見守ってくれた清水副館長が出席され、コメントしていただきました。

清水副館長からは楽しみながらやってもらえること、その中で得るものもあってほしいとのこと。また、会員からは、“人のためというより学習会や研修が自分のためになっている”との嬉しいコメントがありました。研修は各地の博物館で学芸員やボランティアの方からの素晴らしい解説を生で聞くことができます。それを基に我々も山博でガイドできるように、、、したいのですが、そのハードルがちょっと高い。そのために解説資料を作って少しずつでも実践できればという前向きな意見も出ました。

来館者とのかかわり方について、ボランティアガイドとして館内での役割は、わからないことがあれば館に伝えるパイプ役であればよい、その上で専門分野を増やしていく、とにかく来館者と話をしてもらうことが大事とのこと。

フリートークではさらに友の会全体の問題点などに話が及び、会員の若返り、子供たちにどうやって山博に来てもらうかなどを話しあいました。これはSDGs—持続可能な山博友の会の重要な問題点です。ある会員からは友の会に入ったきっかけとして、子供向けの楽しそうなイベントがあったとか、自然観察会が充実していた、などの意見が出ました。また、“これからは水、空気、食など本当に当たり前にある身近なものに目を向けていくことが必要ではないか”との発言もありました。人が集まって心の中に思うことを言い合う大切さが心に染み、大いに刺激を受けました。地球の、若者の未来を守るための発信を少しでも山博友の会からできたらいいなと思いました。

“ボランティアサークルの作業内容”は、館周辺の美化のため春から秋にかけての草取り、落ち葉掃き、サクラソウのポットの除草、運搬、ゆきつばき通信など郵送す



る配布物の封入作業、山博の行事への参加、補助手伝いです。いつでも募集しています。
(記 丸山優子)

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

「高瀬川かわものがたり ～地図でたどる川の移り変わり～」

主催：歴史的な水害史料活用研究会 共催：池田町、池田町教育委員会

◆ 池田町交流センター なないろスペース壁面ギャラリー（電話 0261-62-2058）

◆ 2月19日～2月28日（午前9時～午後5時） 無料

2月28日まで池田町交流センター「かえで」で行われています。県立歴史館の所蔵する江戸、明治、大正の高瀬川氾濫川除（かわよけ 堤防工事）の絵図・地図（レプリカ）を展示しています。昔の川の氾濫を見て、最近言われている「いまだかつて経験したことのない」災害に対応する防災資料とし、防災意識を高めることを目的としています。研究会オブザーバーである宮澤友の会会長も会場にいます。（25日の講演会は満席となりました。オンライン配信が予定されています。21日（日）、23日（祝）、28日（日）は午前10時30分～、午後1時30分～、午後3時00分～の3回、ギャラリートークがあります）

<http://www.ikedamachi.net/0000002202.html> 池田町HP

ゆきつばき通信編集室より

コロナ禍で一年が過ぎてしまいました。人の移動もはばかられ、令和2年の総会や探鳥会は中止となりましたし、その他の事業や博物館の催しにもいろいろ制約がついてしまいました。

3年度の総会や記念講演会は、予定通り実施したいと思います。まだまだ我慢と配慮が続くでしょうが、みんなが近くに集える友の会まで、ひとがんばりしましょう。そして、共感しましょう。

行事では飲み物などの提供はしばらくできないと思います。SDGsもありますが、マイボトル等でご持参ください。

(丸山卓哉)

ゆきつばき通信 第186号

発行／大町山岳博物館友の会 2021年2月21日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

